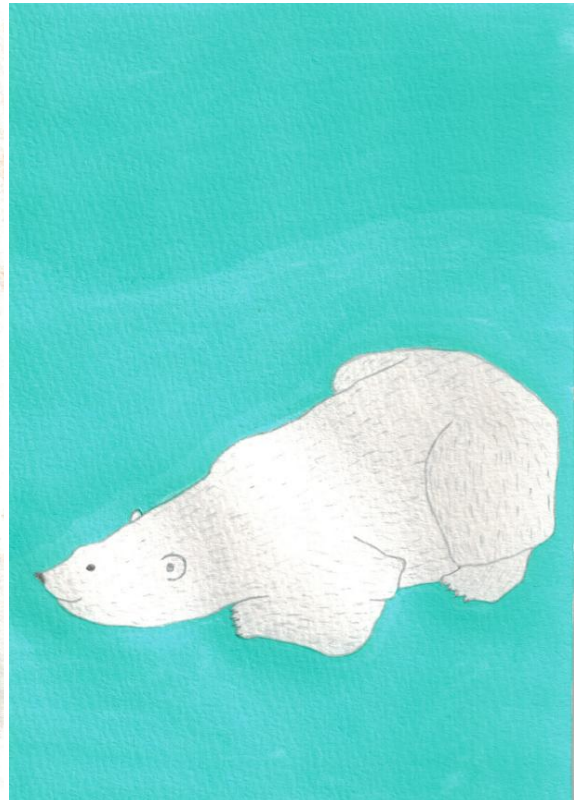


めんたるねっと

VOL. 17-2

No. **66**

特集	【新型コロナ】その影響 ～4施設へのアンケートから～	2
被災地より	気仙沼が朝ドラ舞台に～「おかえりモネ」予告から感じたこと～	5
事務局から	古民家(風)での活動 ～庭付き一軒家に事務所を移転～	6
	寄附のお願い / 改修工事や備品購入に協力を	8
	ジョブコーチ / 支援の役割自体に変化が	9
	Irodori / 昼食会 OBも参加し賑やかに	9
	プレジョブスクール / 新しい場所で畑仕事も	9
	事務局より / 予定・報告	10



【新型コロナ】その影響 タイプの違う施設へのアンケートから

新型コロナウイルス感染拡大予防の対策はこれからも私たちの課題である。そこで私たちが今後どう取り組んでいくか、また、この機会をうまくとらえ、より良い運営や支援ができようになりたいと考え、生活支援センター、就労支援センター、デイケア、地域活動支援センターの4つの施設のスタッフからコメントを頂戴した。アンケートは筆記式で、テーマは3つに絞らせてもらった。①施設運営にあたり、コロナウイルスがもたらせた良い変化 ②施設運営にあたり、コロナウイルスがもたらせたネガティブな変化 ③あの時（4月、5月）大変だったこと、そして今後を活かせそうな対応—である。それぞれの工夫と前向きな姿勢に元気をいただいた。ご協力に感謝。

医療法人三精会 汐入メンタルクリニック 有川雅俊

施設運営にあたり、コロナウイルスがもたらせた良い変化

医療機関として良い変化は大変難しい質問ですが、以前に比べて衛生環境が良くなったことは挙げられるかと思えます。デイケアのテーブルを離し座席を半分に減らし、各テーブルで自主的な作業ができるようになりました。

プログラム終了時には使った物品消毒を利用者の皆さんと行き、食事提供前の手洗い、座席などの消毒の徹底。食後は再度座席の消毒、午後のプログラム終了後は使用物品の消毒。その後、フロアをスタッフと利用者で清掃・消毒。閉所後はスタッフのみで消毒作業を行っています。スタッフも利用者の皆さんも衛生管理の意識ができたと思えます。

また、ZOOMを使ったプログラムやオンライン講演、簡易マスクの作り方、公式LINE開設、デイケア通信発行等を行いました。利用者の皆さんへ「安心を贈ることのできるデイケア」にスタッフみんなで検討・実施できたことはよい変化だと思います。

施設運営にあたり、コロナウイルスがもたらせたネガティブな変化

食事提供の制限、消毒材料不足、マスク不足、マスクをしない患者さんへの対応など様々ですが、何よりマスクを常に着用することで表情がお互いわかりに

くいこと。相手の声が聴きとりにくいことや、発語も悪くなったような感覚があります。また、Covid-19に罹患する可能性があるので、デイケアに行きたくても行けない。高齢者の家族がいるのでデイケアを止められている。医療機関に長時間滞在することで、感染するのではないかとといった不安、それに伴い行く場所がないとの声が多くあります。デイケアでのプログラム実施も制限は多く、ミーティングやクッキング、食事提供(具沢山の味噌汁)は難しい状況です。

あの時（4月、5月）大変だったこと、そして今後を活かせそうな対応

2001年12月に当院を開設し、初めてのデイケア閉所を2月に行いました。外来も電話診療を行い、カウンセリングルームではオンライン対応を開始。職員はCovid-19感染拡大を防止する観点から旅行、出張、外食、会食を制限しています。4月からはデイケア利用者を午前・午後の完全入れ替え制で実施。昼食等の飲食容器は全て使い捨てに変更。マグカップを廃止し水筒持参となりました。6月よりデイケア再開をし、少しずつ緩和していますが、以前のデイケアに戻すことは難しい状況です。

しかし、デイケア再開後、見学・利用希望の問い合わせが予想以上に多く、改めて「場」の在り方が問われていると感じています。「安心・安全に参加できるデイケア」として、この経験をスタッフ一同活かしていければと考えています。

施設運営にあたり、コロナウィルスがもたらせた良い変化

コロナ禍による影響で、不安になる方が増えて電話がパンクするのではないかと思いきや、不安を訴える方はそんなに多くなく、自分のペースを崩すことなく過ごされている方が多い事を知りました。

食事サービスは5月、6月とサービス提供を休止し、再開後7月～9月は上限6名まで、10月からは8名と人数制限をしながら、週3回の提供を行っています。この限定何名というのにプレミアム感があるのか、最近では食事がコロナ禍以前よりも人気です。

自立支援アシスタントや退院サポートでは予定していた訪問が無くなる中でもそれなりに暮らす利用者を見ることが出来て、その方々の生きていく力を再認識出来ました。

施設運営にあたり、コロナウィルスがもたらせたネガティブな変化

4月9日の緊急事態宣言を受け横浜市から生活支援センター運営に関して、開館時間を11時から8時間に短縮して、食事サービスの提供も休止するという指示が出されました。また、5月2日から6日までのゴールデンウィーク期間は、フリースペースの利用と面接や訪問での相談を自粛するようという通知が出されました。

4月、5月に企画していたプログラムや行事は、新型コロナウイルス感染予防のため中止しましたが、6月より人が密集せずにソーシャルディスタンスが確保できるプログラムから徐々に再開しています。また例年ではバス旅行や夏祭りといった大規模な行事や外出を実施していましたが、その代替として創作活動を行う「ものづくり」というプログラムを6月より毎月実施しています。

また、電話での相談が中心になったため、電話相談だけでは実態が把握できていない場合が見受けられた等の対応の遅れです。

あの時（4月、5月）大変だったこと、そして今後に活かそうな対応

4月9日の緊急事態宣言から5月末までは職員も2

交代制として職員間でもお互いのグループとの接触は無いようにしました。

6月より開館時間は通常通りに戻りましたが、3密を避けるためにフリースペースの利用人数は10名までと制限をしています。

退院サポート事業は病院自体が来所不可だったため訪問を中止として、自立生活アシスタント事業は訪問が必要ならば訪問。電話で安否確認等が可能な方に関しては電話対応を行いました。

コロナ禍を経験して利用者も、何かあった時の備えを意識するようにはなつたと感じられる。緊急時に備えて本人が出来る準備を一緒にしておくことと、不測の事態が起きうることをスタッフ間で共有しておくことが大切であると改めて感じました。

施設運営にあたり、コロナウィルスがもたらせた良い変化

すぺーす海は緊急事態宣言中、休所・短縮等は実施せず、開所していました。その時を共有していたこともあり、記憶に残る大きな出来事を共に過ごした仲間として利用者、職員皆のきずなが強くなったように感じます。のちになって、あの時は大変だったけどよく頑張ったよね、と笑い合える仲でいられるだろうと思います。その他にも健康に対する意識が高まったこと、区内の企業の方からマスクのご寄付をいただいて感激したことなど、心の温まることもありました。利用者の中にはふだんは身だしなみや時間に課題のある方もいますが、手洗い・消毒・マスク着用は皆必ずしており、やるときはやるのだ、と実感します。

施設運営にあたり、コロナウィルスがもたらせたネガティブな変化

何とかしたいこと・ネガティブなことでは、私たちは作業以外に運動・音楽・カラオケなどのプログラムや外出レク、旅行などありますが、コロナ禍で出来ることが狭まってしまいました。思い切り歌ったり笑ったりしたいのですが、感染リスクが高まるため遠慮がちになっています。日常の気分転換や楽しみになることが限られてしまい、悩ましいところです。ポステ

ィング・メール便の配布物が減ったこと、地域のイベントやバザーが中止になったことも痛手です。利用者の収入減もありますが、地域の方や関係機関との交流の機会が少なくなったのも残念なことです。また、「すぺーす海」を長期欠席している方とはコロナ禍を共有できず、互いの距離感が広がってしまいそうで心配です。

あの時（4月、5月）大変だったこと、そして今後 に活かせそうな対応

大変だったことはコロナへの不安とストレスです。冷静に話し合っただけで気持ちが落ち着くように心がけましたが、緊張感を持ち続けながら利用者さんにはリラックスしてもらいたく、そうは言っても楽しみも限られてしまい窮屈でした。その大変な時にもお互いに愚痴を言ったり励まし合ったりと、日常にあるお互いのやりとりが心の温まることでした。ボランティアさんが来られない時に調理してくれる方、調子が悪い方の代わりに作業する方など、頑張ってくれる利用者さんや、変わらずマイペースでいる利用者さんたちがいて、本当に頼もしく、心強いです。コロナ禍は大きなストレスであり、精神障がいのある方にもない方にも、そのストレス対処が心の健康を保つために必要で、コロナ対策だけでなくより身に付けていきたいと感じています。

横浜日吉就労支援センター 松尾江奈

施設運営にあたり、コロナウィルスがもたらせた良い 変化

センター職員は三密を避けるため、所内に最大2名在席するシフトを組み、電話やリモート面談に対応していました。就労支援センターは、通常外出先での相談対応や就労支援を実施することが多いため、昨年度から出先で事務仕事ができるよう、モバイルパソコンの配備を進めていました。そのため、在宅勤務の職員へのIT環境の整備については思いのほかスムーズで、週1回の所内定例会議もSkypeやZoomの導入によって、自粛開始直後から始めることができました。リモートでの職員間での打ち合わせが可能となり、通勤時間がカットできたため、その分効率的に仕事ができたと感じています。また、通勤時間のカットは職員だけでな

く、日吉を利用されている障がいのある人にとっても、通勤電車への負担が軽減でき、メリットが大きかった様です。

施設運営にあたり、コロナウィルスがもたらせたネガ ティブな変化

最も痛手だったのは、企業の採用がストップしたため、これまで就職活動を進めていた方々の動きも止まってしまったことでした。中には、採用面接の結果に2カ月以上待たされる方もおり、見通しが持てないことによって、不安を訴えるご本人・ご家族も複数いらっしゃいました。ただ、その方々は就労継続B型事業所に在籍されていて、通所先も活動日数や時間を減らすことはありましたが、完全に閉所することはなかったため、完全在宅とはならず、来るべき活動再開に向けて何とか気力・体力を温存していくことができました。現在、その方たち全員が就職を達成されています。振り返ってみれば、通所先があるほうが生活リズムも崩さず、作業に従事することでスキルやモチベーション低下を防ぐことできるため、「所属がある」ということはとても大事なことだと思いました。

一方、私たちも対面支援を自粛することによって、ご本人や企業とのコミュニケーションが取りづらくなりました。リモート面談も実施していましたが、普段私たちが実施している「構造化面談」（*ホワイトボードや書面を使って、面談内容を書き込みながら進めていく方法。お互い目に見えるかたちで方向性が確認できる）は、やはり対面でないと実施しづらく、お互いの意思疎通が難しくなったことはデメリットでした。現在は、面談室の消毒、パーテーションの設置、換気等で密を避けながら対面での面談を再開しています。

あの時（4月、5月）大変だったこと、そして今後 に活かせそうな対応

センター側の対応や、企業やご本人とのコミュニケーション手段の構築など、何もかもが手探りで、自粛当初は四苦八苦していたと思います。今後は、効率的なリモート対応と、ここぞという重要なタイミングでは対面の面談を実施するなど、使い分けていきたいと思っています。

「おかえりモネ」予告から感じたこと

～ 気仙沼がNHKの朝の連続テレビ小説の舞台に… ～

みやぎ心のケアセンター気仙沼地域センター 片柳光昭

10月も半ばを過ぎると一気に気温が下がり、気仙沼の秋はもう冬に手招きされているように感じる程だ。

今年は新型コロナウイルス感染症のニュースで一色となっているが、そんな中でも嬉しいニュースも届いている。2021年春から始まるNHKの「朝の連続テレビ小説」(朝ドラ)の舞台が、ここ気仙沼に決定した。移動が難しい状況にあっても、TV画面を通じて気仙沼の魅力が全国、いや世界の方々に届けられることは喜ばしい限りである。

先日、「どれどれ」と興味本位でNHKの「おかえりモネ」予告ホームページを覗いてみた。

.....

「私、10分先の未来を予測したいです！」

ヒロインのふるさと、気仙沼湾沖に浮かぶ緑豊かな島。嵐の夜、産気づいた母を皆が命がけて船で運び、なんとか生まれたヒロインは、島が大好きでした。しかし「3.11」の時、気仙沼は大きな被害を受けました。その日、ある理由で島を離れていた彼女は「自分は何もできなかった」と後ろめたさを抱き、やがて内陸の登米へと移り住みます。以来、ずっと誰かの役に立ちたいと思っていた彼女は、生き方を模索する中で、天気予報の可能性と出会うのです。

懸命に努力して、気象予報士の資格を獲得したヒロイン。東京の気象予報会社に飛び込み、「空の未来を予測して、人々を笑顔にすること」の魅力を知りながら、経験を積んでいきます。時を経て、一人前の気象予報士となった彼女は「気仙沼にかつての活気を取り戻したい」との目標を胸に、故郷の島へ。予報士ならではのアイデアで、家族や幼なじみたちと力を合わせ、ふるさとに貢献する道を探します。

(NHK ホームページ「《2021年度前期》連続テレビ小説
おかえりモネ 制作決定」より、一部抜粋

(<https://www6.nhk.or.jp/nhkpr/post/original.html?i=23685>)

.....

この数行のドラマの紹介に、いろいろな感情が交差した。

ひとつは、このヒロインの背景と、実際にこの地域に住んでいる若者の姿が重なったからだ。筆者は、支援での関わりや看護学校での授業を通じて、十代や二十代の方々からお話を聴く機会が多い。そのなかには、「地元の役に立ちたいから、ここで就職したいと思っています」「震災の時に、家族が看護師さんにお世話になった。その時の看護師さんの姿をみて、将来を決めたんです」等の思いを打ち明けてくれることがある。小学生として、あるいはもっと若い年齢で普通に生活していた彼らの人生は、2011年3月11日を境に大きく変化した。想像を超えた壮絶な時間が続いたことだろう。しかし、それにもかかわらず、力強く生き抜き、震災を糧に将来を描く彼らの表情が不意に思い浮かんだのだった。

もう一つは、「私、10分先の未来を予測したいです！」というフレーズにある。あらすじでは、空の未来を予測することを意味しているようだが、それだけではないように思えてしまう。あの日、震災を経験しただれもがそう思ったに違いない。こんなことになることがわかっていたら、と。

そして、震災から丸10年を迎えようとしている気仙沼は、どのように映し出されるのだろうかと思像した。そして、それを全国の人はどう見て、この地域の人はどう見るのだろうか。被災した街として、だろうか。それとも、復興が完了した街として、だろうか。同じ映像だとしても、きっと違うそれらが見ている人の目に入ってくるのだろう。

ここまで必死に歩んできた力強さと、ここから未来へ向かう頼もしさ。回復してきた事実と、癒えない傷がある事実。忘れて欲しくない思いと、えぐられたくない思い。いろいろな思いと感情を胸に、来年の春はTVに目を向けてみたいと思う。

古民家(風)での活動

～庭付き一軒家に事務所を移転～

古民家(風)の一軒家に引っ越しました。昨年度より、活動の転換を協議し、模索してきた中で私たちに与えられた物件です。竹林を前方に見ながらゴロンと寝転がると小鳥のさえずりが聞こえ、「ここ、本当に上大岡??」と思わせる、豊かな時間を味わえる場所です。ここを訪ねて来られる方は、「時を忘れちゃうね」と、のんびりくつろげる時を味わってくださいませ。

今年5月の総会で正式に決定した事務所移転。5月の連休にこの物件に出会い、見学し、誰もが「遠い」こと「シェアハウスができない」の2点がネックだと決断できずにいました。私たちが新事務所で実施しようとしていた事業は、子ども・若者のキャリアスクールとシェアハウス、居場所カフェです。連日インターネットで物件を検索し、気になる物件を見つけては不動産会社にアポをとり、事情を説明する日々が続きました。目標は6月末に決断すること。10カ所以上の物件をめぐり、アポもとり、断られるの繰り返しでしたが、時間切れということになり、少し「遠い」「シェアハウスができない」ですが、緑の豊かな庭の広い。この物件に決定しました。

引っ越しが決まってから

引っ越しが決まってからは、理事、スタッフが相談しつつ、計画通りに事が進んでいきました。いろいろ、プレジョブ。トライのOBもみんなが心配したり、手伝ってくれたりしました。

引っ越し前の片付け、掃除はプレジョブ生が担当しました。カビやほこりだらけの畳がきれいになり、食器棚やトイレもすぐ使える状態にしてくれました。3人のボランティアさんが押し入れを壊し、ベニヤを張り替える工事をしてくれ、広さが確保できました。

引っ越し前後は、トライOBのボランティアさん、会員ボラが集まり、荷物の梱包から搬入まで、スムーズにあつという間にきれいに全てが納まりました。



プレジョブ、Irodori 再開

引っ越したのは7月末だったので、プレジョブはすぐに夏休みになりました。再開は8月末。でも週2回フリーで開放していると、プレジョブ生が資格の勉強だったり、なんとなく過ごしに来たりして、新しい住処に足を運んでくれていました。駅から遠くなったので、プレジョブのプログラムは研修室を借りることも考えていましたが、ここにやってきて、ゴロンと寝転がっている姿を見て、この地でプログラムを再開できそうな手ごたえを感じ、ここでのプログラムを実施しています。「やればできる」でした。環境を味方につけられたのか、出席率も良く、豊かなプログラムができています。なぜか金曜日のスポーツの放課後は卓球部の活動が定着しています。



ボランティアの力

今回の物件の家主さんは、「家の改造、カフェにすること、全てOK」と言ってくれています。引っ越し前の草刈りの日にお会いしたのですが、メンタルネットの活動にとっても関心を持っていて、ご自身も高齢者施設でボランティアをされているということで、居場所カフェができるのをとても楽しみにしてくださっていました。

その他、屋根の穴が気になるからと、仕事帰りに屋根を直しに来てくれるボラ。すだれや草むしりの道具など、自前でそろえて取り付けてくれるボラ。畑は任せて!! と畑づくりをし、週1回、様子を見ながらアドバイスしてくれるボラ。お隣さんも住み心地についてよく声掛けてくれたりします。(実は、前の事務所でも隣の会社の社員さんが色々心配や声掛けをしてくれていました。・・・感謝)



事務所が移転して利用者は...

- ・ 深閑(ホントは森閑だがあえて)として落ち着ける空間がとても気持ちが良い。但し急勾配がなかなかに厳しいがたどり着いたときの落ち着き感は代えがたいと思ふ
- ・ はじめて行った掃除の日は雑草だらけで驚いた。階段が急だったり、夏は蚊が多いけど、緑に囲まれているので静かで落ち着く。駅から遠くなったけど、たくさん歩くので運動になる。
- ・ 掃除に来たときは、ザ・古民家でプログラムができるのか... 引っ越し後は襖が外され、開放感がありながらもプログラムができる環境になってい

た。前より駅からの距離が長く上り坂が増えたけど、車や電車の喧騒から離れ、心がより落ち着く場所になった。

そして新事業

駄菓子屋カフェ “Irodori” 11/4オープン

引っ越しが落ち着いた頃、「新型コロナウイルス対応緊急支援」の助成金を申請し、採択されました。提案した企画は、コロナ禍でプレジョブ生の職業体験の機会がなくなってしまったので、自前で駄菓子屋カフェを運営しつつ、職業体験の機会を維持する。というものです。9月に提出し、10月10日に採択され11月始動というタイトなスケジュールですので、まずは駄菓子を仕入れて売るという単純な作業から開店します。幸いにも近くの社会福祉法人そよ風の丘、港南中央地域活動支援センターそよ風の家のパンを仕入れられることになり、パンと駄菓子がそろいました。まずは看板を掲げ、玄関先が小さな店舗になります。その中でプレジョブ生は、接客、経理、仕入れなど一連の作業を体験していきます。またこの企画では、プレジョブ生以外の方も体験できたり、地域の子育て家族、高齢者の集う居場所になったりすることも期待しているところです。

新しい拠点で、身の丈に合った、しかも豊かな活動をしていくつもりです。会員の皆さんの応援がとても助かりますので、どうぞよろしくお願いします。

(YMSN 鈴木弘美)



寄附のお願い

YMSNの会員及び関係者の皆様、日頃より当法人へのご理解、ご協力をいただき心から感謝申し上げます。さて、お知らせしておりますようにこの度当法人移転いたしました。ここから新たに若者支援を始め地域の居場所の一つとなるよう今後もスタッフ一同努力していく所存です。

しかし、今後の活動を行うにあたり、幾つかの屋内改修工事や備品の購入が必要となります。例えばトイレを2カ所設置、冷蔵庫の買い替え等です。すでに移転で80万円程度出費しているため、これらの費用の捻出に大変苦慮しているところです。そこで皆様には是非ご寄付のご協力をいただきたくお願い申し上げます。目標金額は80万円です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

◎ 認定 NPO 法人です。国税、神奈川県民・横浜市民税が控除されます。

2020年の確定申告の際に「認定 NPO 法人に寄付をした」と手続きしてください。寄付を頂いた方には、こちらから税務署師弟の領収証を1月上旬に送付しますので、確定申告の際ご活用ください。

① 個人が認定 NPO に寄付した場合、所得税、住民税から寄付金額の最大 50%の金額の税金が控除されます。【12000 円の寄附を頂いた場合】

- ・ 所得税 下記の2通りの内有利な方を選べます
 - ・ 税額控除 $(12000 \text{ 円} - 2000 \text{ 円}) \times 40\% = 4000 \text{ 円}$
 - ・ 所得控除 $(12000 \text{ 円} - 2000 \text{ 円}) = 10000 \text{ 円}$ を所得から控除
- ・ 住民税
 - ・ 個人県民税 $(12000 - 2000) \times 0.02 = 200 \text{ 円}$ (2%)が減税されます。
 - ・ 個人市民税 $(12000 - 2000) \times 0.08 = 800 \text{ 円}$ (8%)が減税されます。

② 法人が認定 NPO に寄付した場合、損金算入限度額が拡大され寄附金の限度額が広がります。

- ・ 特別損金算入限度額 $(\text{資本金等の額} \times 0.375\% + \text{所得金額} \times 6.25\%) \times 1/2$

③ 相続人がその相続財産を認定 NPO 法人に寄付をした場合

- ・ 寄付をした相続財産は、相続税の課税対象から除外され、非課税になります。

2020 年度. 会費を頂いた方 (以下、敬称略)

久保真理、岳瀬真理子、菅谷幸彦、高橋恵、久間久恵、渡辺和美、佐藤幸江、山本香奈芽、宮たず、野末浩之、武岡孝、平井一寛、佐藤不二代、渡辺英俊、羽鳥乃路、鈴木玲子、桜井廣知、吉野裕、加瀬昭彦、菱倉昌二、金山正恵、森川充子、武井昭代、佐倉洋、長嶋悦子、落合まいな、杉立あくね、原悦子、石川到覚、山口奈保、大平道子、加藤久博、舩松克代、鈴木弘美、山本圭子、中島契恵子、松本まさみ、奥崎宏一郎、桐原重孝、桐原重孝、宮崎全代、蜂須賀益徳、片柳光昭、西村清貴、一般財団法人神奈川ゆめ社会福祉財団、

2020 年度. 寄付を頂いた方 (以下、敬称略)

税理士法人エクラコンサルティング、久保真理、堀江有里、武井昭代、宮崎祥司、森川充子、加藤久博、舩松克代、山本圭子、蟻塚浩美、有限会社シェアグリッド、福井里江、匿名

ジョブコーチ

ジョブコーチ支援が導入された頃に比べると、現在は障がい者雇用の仕事の幅がかなり広がってきています。当初は市場や工場での作業、清掃など肉体労働が多く、作業の細かな指示など含めてジョブコーチと一緒に作業を行いながら、マニュアル作成や1日の流れを組み立てていました。しかし現在は、事務の求人が増え、肉体労働など体を動かす仕事が減ってきています。多種多様な求人が増えたことにより、多くの場で活躍できる方が増えてきたことは、とても喜ばしいことだと感じています。

【個人情報を取り扱っている企業では入室を禁止されているので、どのような環境・雰囲気、どのような方と仕事をしているのかわからない方もいます。飲食店や病院等で勤務されているなど直接の支援が難しい職場がとて多くなりました。】

以前は仕事を覚えるための支援が中心でしたが、今はマニュアルの作成や当事者が困ったときに対応する体制作りなど、自社で支えていこうとする企業が増えてきたので、ジョブコーチ支援の役割自体が変わってきていると感じます。多くの方が働けることで障がいも多様になってきています。最近では企業、当事者間でのコミュニケーションの支援が中心になってきています。同じ病名でも各々により障がい特性が違ってくるので、企業にはその方の障がい特性への理解、その上での対応の仕方や作業指示・声かけの仕方。当事者についても自身の障がい特性の授受や理解の促し、それを踏まえての相談や質問の仕方などコミュニケーション面での支援が多くなりました。今後は支援者が入らずとも、当事者自身で体調や特性を伝えられ、企業で対応してもらえよう相互理解を目指した支援を続けていきたいと思えます。(YMSN 吉成広美)

〈昼食会〉

最近の昼食会では、OBのみんなも参加してくれて、いつも賑やかに料理を作っています。引っ越ししてからは、お庭にある畑から野菜をとってきて、味噌汁に入れ、とても美味しく食べています。10月の昼食会では餃子を100個近く、みんなで包みました。包み方はみんなそれぞれで違い、個性あふれる餃子がたくさんできました。焼き上がってみんなで食べる時には、ご飯の上に餃子をのせて餃子丼にしり、たくさん餃子を食べました。大勢で食べる手作り餃子はとてもおいしかったです。昼食の後は後片付け当番をかけて、UNOをやりました。7人ぐらいでゲームをしたのでなかなか終わらず、白熱した戦いになりました。そして、新しい事務所は一軒家で、のんびり過ごせる雰囲気があっていいねとみんなと話しています。(YMSN 原悦子)

Irodori

プレジョブ

〈新しい場所での活動〉

メンタルネットの移転に伴い、プレジョブも新しい場所で過ごしています。

7月、引っ越し前にみんなで大掃除をしました。9月、ボランティアさんと一緒に庭を耕して畑を作りました。ブロッコリー、じゃがいも、春菊、コスモスなどの花も植えてお世話をしています。あるメンバーは、毎日プログラムの合間に水をやり、コスモスの開花を楽しみにしています。

プログラムは徐々に、グループでの話し合いや作業の機会が増えていきます。一例として、先日イベントを企画した日の感想をご紹介します。「自分の意見を言えた」「話が脱線したとき、少しイライラしてしまった」「自分からホワイトボードに板書して、出しゃばっちゃったかな」「自分の案は通らなかったけれど決まって良かった」「イベントがすごく楽しみ、ワクワクしている」。いつもの感想と比べて、感情豊かに言葉で表現していました。新しい場所で活動の幅を広げながら、素直に自分の気持ちと向き合っていきたいと思えます。(YMSN 山口奈保)

定例研修会

・精神保健福祉研修会

- ・日程 毎月 第2金曜日(全10回)
- ・時間 pm. 7:00~8:30(8月はお休み)
- ・場所 ウィリング横浜研修室 (上大岡駅 徒歩5分)
- ・費用 500円
- ・内容 ひきこもり(詳細はHPで)
- ・ホームページをご覧ください <http://forest-1.com/ymsn/>

当事者のためのグループ活動

・就労フォローアップミーティング

- ・年1回、OB会の開催

・就労者SST

- ・日程 毎月 第1土曜日 時間 pm. 1:00~2:30
- ・場所 YMSN研修室

・当事者グループ活動

スキルアップ研修 詳細はホームページ

・オンラインでの研修企画中

- ・CBT基本の”き” 基本の”ほ”

正会員：5,000円(個人) 賛助会員：12,000円(団体)

(正会員・賛助会員にはYMSN情報誌を無料配付)

振込先：郵便振替口座 00250-6-71607

横浜メンタルサービスネットワーク

会費を銀行・コンビニATMやネットから振り込む場合の入力方法をご案内します。

振り込み料は432円かかりますが、郵便局に行かなくても良いので楽は楽です。

(金融機関名) ゆうちょ銀行 (店名) O二九

(種別) 当座 (口座番号) 71607

(名義) ヨコハマメンタルサービスネットワーク

季刊 YMSN情報誌 Vol. 17 No. 2

YMSN 第66号 2020年10月31日発行

年間購読料1,000円(年4回発行) 1冊頒価300円

発行：NPO法人 横浜メンタルサービスネットワーク

理事長 鈴木弘美 編集代表 森川充子

〒234-0052 横浜市港南区笹下1-7-6

TEL 045-841-2179

FAX 045-841-2189

<http://forest-1.com/ymsn/>

e-mail : ymsn@forest-1.com